

可児
工高
同窓会報

発行所
岐阜県立可児工業高等学校
同窓会
岐阜県可児市中裏土2358-1
TEL(0574)62-1185

同窓会長 挨拶 機械科七回生 藤田 幸夫



日頃、同窓会会員の皆様には会の運営に御支援、御協力を賜り心よりお礼申し上げます。

今年度は平成から新しい年号となる記念すべき年で、来年はいよいよ日本で東京オリンピックも開催され今から日本選手の活躍に心がわくわくしてまいります。

母校においては昭和三十七年創立以来、五十五年の伝統の中で約一万一千名の卒業生を輩出し社会の各分野にて素晴らしい活躍をされております。各企業からの信頼信用も厚くその評価として、求人倍率も十四倍と在校生の皆さんにとりましては自分に最適な職場選びと、夢に向かって社会へ羽ばたける本場に良い環境になってまいりました。これもひとえに社会で活躍してみえる同窓生の皆様のおかげと感謝申し上げます。さて私達を取り巻く経済環境も時代が大きく変化し、自動車業界では百年に一度の大革命期を迎え、全ての産業でAIの導入が急ピッチで進み、グローバルでは米中の覇権争いでの貿易競争にて世界、日本経済にも悪影響も出ており、国内では今年

十月の消費税アップで今後の景気が懸念されます。又昨年は多くの大手企業の品質不正問題が発覚し今まで品質管理技術世界一であった日本の物造りが根幹から揺らいでいます。この事は品質管理の原点である『決め事』を真面目に守っていかなくてはならない事を教えています。我々同窓生の多くが『物づくりのプロ』として従事する中で次世代へ正しい『ものづくり』を伝えて行かなくてはなりません。

幸いなことに母校の在校生諸君はスポーツ、学業にと素晴らしい活躍をしてきていて、今や可児工業高校の上位独壇場になりつつあるマイコンカーラリー大会や缶サット優勝、高校生『ものづくり』東海大会旋盤部門優勝、ホッケー部東海大会優勝など多くの分野で輝かしい成績を残してくれました。これは指導される先生方とつらい練習を実践した生徒の総合力の結果であり、同窓会としましては在校生の学生生活が充実し楽しく実り多いものになる様は今後も支援してまいります。

最後に同窓会会員の皆様のご健康とご活躍を祈念しまして会報発刊の御挨拶とさせていただきます。

校長 挨拶 西垣 幸司



同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に御理解・御協力をいただき心より感謝申し上げます。

平成二五年の創立五〇周年式典から早五年が経過し、創立五五年目を迎えています。創立記念事業で同窓生の皆様に整備いただいた多目的コート・ランニングコース・マイクロスはもとより、昨年から今年にかけて寄贈いただいたワンタッチ式簡易テントやグラウンド照明施設をはじめとする様々の御支援で、多くの恩恵に預かることができました。

本年度の猛暑による熱中症被害や稀な台風通過数などの異常気象に悩まされましたが、体育大会や可児工祭ではワンタッチ式簡易テントがその威力を遺憾なく発揮してくれるとともに、これまでにない保護者や地域の方々に脚を運んでいただき大会を盛り上げていただきました。

そんな中、運動系部活動ではホッケー部が九年振り十二月に近畿地区で開催される全国高等学校選抜大会の出場を決めるなど、グラウンド照明の有難さが身に沁みています。また、生産系部活動では電気システム部が八月に長野県で開催された全国高等学校総合文化祭(2018信州総文祭)工業部門のマイコンカーラリー大会(アドバンスドクラス)で優

勝、十月に和歌山県で開催された2018缶サット甲子園全国大会に出場、そして一月に東京で開催される2019ジャパンマイコンカーラリー全国大会の予選会三部門(ベーシッククラス アドバンスドクラス エキシビジョン)を制し、前人未到の三連覇に挑戦する予定です。さらに、機械システム部が十一月に愛知県で開催された高校生ものづくりコンテスト全国大会の旋盤部門に東海地区代表として出場を果たすなど、さまざまな部活動が昨年を大きく上回る成績を収め、可児工業高校の知名度を全国に知らしめてくれました。

一方、学習面においては平成二五年年度オーストラリアのクリーブランド地区高校との姉妹提携締結により、以来隔年で相互に生徒を受け入れ国際交流を図ってきました。昨年は七月に七名がクリーブランド地区高校を訪問し、今年十二月に二十七名の大人数を迎え入れ学校全体で盛大に歓迎し、お互いに国際感覚を磨く貴重な機会となりました。

今後も急速な社会のグローバル化や少子化に対応し、可茂地区唯一の工業高校として地域から期待され地域に貢献できる工業技術者の育成を目指して取り組んでまいりますので、変わらぬ御支援・御協力をお願い申し上げます。

活躍する卒業生

技能五輪体験記

(株)デンソー技研センター

犬飼 英明



電気システム科
四十八回生

1 大会の概要

技能五輪とは、若者のものづくり技能を競い合う大会です。技能五輪には全国大会と国際大会があります。全国大会は毎年開催され、四十二職種の競技が実施されます。毎年一〇〇〇人を超える選手が参加し、日本一を目指して技能を競い合います。それに対して、国際大会は二年に一度実施されます。国際大会が開催される一年前の全国大会で金メダルを獲った選手が、出場した職種の日本代表として国際大会に出場できます。2017年の国際大会では五十一職種の競技が実施され、五〇を超える国と地域から一三〇〇人の選手が参加しました。

数ある職種の中で私は電子機器組立という職種に出場しました。電子機器組立は電気で動くものを作ったり、修理したりする職種です。電子機器組立職種には電子回路の設計、CADソフトを用いた図面作成、基板の組立(はんだ付け)、プログラミング、測定、故障解析・修

理などの要素があります。これらの要素は、電子製品の設計・試作から製品の製造、保守に至るまでに必要な要素を示しており、実際に世に電子製品が生み出されるときと同じ要素を持っています。

2 大会結果

私は2014年～2016年まで三回全国大会に出場しました。2014年は敢闘賞(十四位)、2015、2016年は金メダル(一位)を獲得することができました。2016年の全国大会は国際大会の選考を兼ねていましたので、2017年の国際大会に出場することができました。国際大会の結果は、残念ながら敢闘賞(五位)でした。

3 技能五輪を通して学んだこと

私は技能五輪の選手として合計四

年間訓練を行ってきましたが、その中で、大きく二つのことを学びました。

まず一つ目はより良いものを目指す姿勢が大切だということです。全国大会二度の優勝、国際大会五位の結果を残すことができたのは、日々の訓練で現状に満足せず、改善し続けたからだと思います。高い目標を立て、そこに向かって取り組むことで、より良いものを目指す姿勢を身に着けることができるということ学びました。

二つ目は、分析、情報収集を欠かさないことです。どれだけ高い目標を立て、それを目指す姿勢ができていても、自らの分析と必要な情報収集を行えなければ目標を達成することはできないと思うからです。分析と



大会風景 (はんだ付け作業)



大会風景 (プログラミング作業)



大会風景 (故障解析・修理作業)

情報収集をすることで、アイデアや発想の種を見つけることができ、自分自身の問題解決の役に立つとともに、自身の知識を向上させることに繋がると分かりました。

4 現在の仕事

2018年現在は選手を修了し、後輩指導をしています。四年間自身が選手時代に学んだことを生かしながら、技能五輪に関してや人材育成のありかたの先を見据え、選手指導をしていきたいと考えています。選手とともにさらに自分を成長させ、世界一になれる選手を育成していけるよう頑張ります。

活躍する卒業生

「継続こそ力なり」

岐阜県立東濃実業高校

佐合 重治

電気科 十一回生

平成三〇年三月に三十八年間の教員生活を終了しました。そのうち二十四年間、可児工業高校に勤務し、退職まであと3年で加茂農林（ホッケー部なし）に転勤し二年間の勤務を経て幸運にも現在のホッケー部（女子）のある東濃実業高校（以前、勤務経験あり）に着任ができました。自分の気持ちは「ホッケーのために」の思いで平成二十九年度、三〇年度（再任用フルタイム）の勤務を継続しています。思いが通じたのか、平成三〇年度、第五〇回全国高等学校選抜ホッケー大会の東海地区第三代表として出場権を獲得しました。

東濃実業高校の現状はグラウンドがクレーで、サッカー部の朝練や体育の授業で部活を始める頃にはガタガタであり、グラウンド整備をしてから活動を開始しています。整備してもホッケーがまともに行けるグラウンド状況には程遠いです。毎日二時間のボールを使った練習、その後の体力トレーニングが平日メニューです。女子部なので帰宅を考えると遅くまでは活動できないといった制約の中で毎日コツコツと同じような練習を繰り返しています。祝祭

日や長期休業中は、人工芝グラウンド（大会が人工芝のため）を求め、マイクロスズで遠征をしています。このような大きな環境のハンデを背負いながらも、楽しく、主将を中心に部員主体で活動しています。その結果として、全国大会の切符を獲得しました。

どんな時でも、どんな環境でも、直向きに地道にコツコツと努力を続け、力をつけていくと必ず良い結果が待っているという経験、そして、この経験「継続こそ力なり」を将来の人生においてもいろいろな場面で活かして行ってほしいと日々願いながら指導をしています。また、今後も継続していきます。

末筆ながら、可児工時代にお世話になりました多くの皆様方に感謝の気持ちをお礼を申し上げます。ありがとうございました。



東海大会での監督

頑張る可児工生

マイコンカーラリー

電気システム科 三年

佐藤 健真

本年度大きなマイコンカーラリーの大会として第四十二回信州総文祭産業（工業）部門の信州マイコンカーラリー大会2018とジャパンマイコンカーラリー2019東海地区大会に参加しました。平成三十年八月一〇、十一日と開催された信州総文祭のマイコンカーラリー大会は初の全国高等学校総合文化祭での開催ということもあり活気ある大会で全国各地から強豪校が参加し実質的な全国大会となりました。私自身体験したことがないレイアウト、そしてロングコースに悩まされましたが、本校の電気システム部 MCR チームの参加者全員が無事予選を突破しました。決勝トーナメントになりコースの走行方向が逆向きになり難易度が上昇し一回戦で完走できたのが一人でした。しかしながらチームメイトが予選最速で切り抜け、圧倒的な速さと安定度で決勝戦を制し、優勝を果たすことができました。

できず、何としても出場権を獲得して全国大会に出場したいと意気込んで大会に臨みました。コースは例年になく難しいコースで完走率は二〇%と劇的に少なかったようです。そんな中本校の MCR チームでは AdvancedClass では優勝、準優勝 BasicClass では一〜四位と両部門で上位独占し全国大会の出場権を獲得しました。私自身は AdvancedClass 準優勝し全国大会の出場権を獲得しました。次は平成三十一年一月十二、十三日と行われる全国大会に出場します。全国大会三連覇目指して頑張りたいと思います。

平成三十年十一月一〇、十一日と行われた東海地区大会においては地区大会十連覇のかかった大事な大会であるとともに全国大会出場権のかかった大事な大会でした。今まで先輩方に一歩及ばず全国大会に出場



JMCR2019 東海地区大会の様子

缶サット甲子園 全国大会 準優勝

電気システム科

三年 佐藤 健真

佐藤 柊也

細野金太郎

二年 谷山 祐樹

缶サット甲子園全国大会は平成三十年十月六日から八日に、和歌山県のコスモパーク加太で打ち上げ実験が、イオンモール和歌山でプレゼンテーションがそれぞれ行われました。

そもそも缶サットとは何かということの説明します。缶サットとは、空き缶(350ml)程度の大きさの模擬人工衛星のことを示します。人工衛星開発や運用を行う人材を育成する目的で、アメリカで考案されたものです。上空およそ二〇〇mにモデルロケットを使って打ち上げ、落下させその間に計測したり、動作したりすることで各チームが設定したミッションを行います。缶サット甲子園では、直径68mm、高さ124mmで重量は250g以上300g以下の規定があります。この規定内であれば、人工衛星を使って何を測っても良いし、何をこなしても良いですがその内容がどのような役に立つか、どんなメリットがあるかを実験し、プレゼンテーションすることで競います。つまり「クール」な人工衛星を開発し運用したチームが評価される大会です。

私たちは、自律走行しながら地表物質を採集することにしました。

今年の岐阜県地方大会は悪天候のため、ビデオプレゼンのみの審査となりましたが、プレゼンの内容を検討しビデオであることの良さを追求した結果、二年連続での優勝をすることができました。

全国大会では、各地方から選ばれた十チームが参加することになります。私たちはその、岐阜県地方大会(実際には中部大会規模)の代表ということになりました。

全国大会に出場するのは、有名な進学校がほとんどで、取り組む内容も非常に高度で難解なものが多くありました。私たちは工業高校ということで、どんな条件でも確実に壊れず動作することを絶対条件として、



製作した缶サット



打ち上げ実験の様子

実験に臨みました。その結果想定したように、人工衛星が動作し地表を走行することができました。そういった技術面やプレゼンテーションの内容を評価して頂き、今年も準優勝することができました。(昨年は技術賞【土岐賞】を受賞)優勝に届きませんでしたので次回は優勝し、後輩たちが世界大会へ羽ばたいてくれることを願っています。

ものづくりコンテスト

「旋盤作業部門」

全国大会出場

機械科 三年

松野 駿也

ものづくりコンテスト旋盤作業部門は、機械科で一番基本となる工作機械を操作して、支給された鋼材を課題(二部品)の図面通りに、制限時間一五〇分で完成させる競技です。作業手順、加工技術、寸法精度、仕上がり精度、完成度、安全意识等が問われます。各地区を勝ち抜いた全国九ブロック代表と開催県代表の計十名の競技となりました。

この競技は、一・二年生の時の県大会で二年連続優勝することができました。二年生で出場した東海大会の結果は二位でしたが、今年の東海大会では頑張って優勝ができたため、今回の全国大会に出場することができました。東海大会と同じ愛知総合工科高校が会場でしたので、少しは

有利でしたが、全国大会はやはり緊張感が違いました。

大会は三日間あり、一日目は移動して練習会を行い、二日目に競技本番でした。内径の仕上げは問題なく削れました。十五分前に完成したので、公差が厳しい箇所を測り直し、追加の加工は不要と判断したので提出しました。少しネジのガタが大きいかなど思いましたが、後は問題なくできました。三日目に審査と閉会式・表彰式があり、結果は残念ながら三位入賞を果たせませんでした。しかし、自分の力を出し切れたことや、初めて全国大会に出場できたので良い経験となりました。今後は学んだ技術と技能を糧として頑張っていきたいと思えます。ありがとうございます。



全国大会会場にて



全国大会の様子

全国高等学校選抜

ホッケー大会へ

9年振りの出場！

今年十二月二十二日から近畿地区（大阪・奈良・和歌山）で行われる「第五〇回全国高等学校選抜ホッケー大会」に平成二十一年度に出場をして以来九年振りの出場を決めました。

九月に行われた「岐阜県予選大会」では一回戦岐阜各務野高校と戦い試合開始から相手のペースで攻め入られる場面が幾度かありましたが好守で切り抜け、徐々に可児工ペースになり、攻撃場面も多く幾度かのチャンスを決め三対一で勝利。決勝では県内最大の壁である全国区の岐阜総合学園高校との試合で開始からお互いに攻防を展開し良いリズムで試合運びが出来たがさすが強豪校だけあり、なかなか得点出来ず一対三で準優勝に終わったが、県代表二番手として東海ブロック予選のへ出場権を獲得した。

「東海ブロック予選」では二チームの全国出場権枠があり我々可児工業高校は第二代表決定トーナメントで、静岡県第一代表・御殿場西高校との初戦となった。この相手校は今年度岐阜で行われた「2018 岐阜インターハイ」に出場しており、その東海予選決勝では岐阜総合学園高校と引き分けSO戦（サッカークのPKと同等）までの実力ある強豪チームでした。だが今回はその時のメンバーが一部出場していなかったし我々も「目指せ全国！」を合言葉に日々の練習

習で培ってきた力を発揮し一対〇で二回戦目へ駒を進めることが出来ました。

二回戦目の相手は愛知県第一代表・愛産大工業高校で普段からよく練習試合をする相手で手の内を知っているチームだけに戦ってみたいとわからない状況であった。

前日の静岡戦でかなり体力消耗した状態で迎えた第二代表決定トーナメント決勝！ 試合開始早々いつも勢いのある愛産大工業高校の雰囲気にも飲まれそうな試合展開で前半は何度もピンチを迎えたが、可児工十九人全員の「勝ちたい！全国出場したい！」と言う気持ちが好守プレーに現れ徐々に可児工ペースとなり後半、幾度となく得点チャンスを迎えるが、そんな緊迫・白熱した試合終了十分前に向かえたPC（ペナルティーコーナー）でチームの総意がゴールを決める結果となり一対〇で終了のフオーン！！

皆で「全国切符」を勝ち取った。八月上旬に行われた東海高校選手権大会では三年生・三名、二年生・九名、一年生・七名メンバーが出場し、東海四県に所属する九チームで戦い見事頂点に立ち優勝したことも大きな自信につながりました。皆で目指した全国出場！ 大会までに残された時間でもっと練習し、全員守備全員攻撃態勢で迫力あるプレーを大舞台で「可児工業高校」の名をアピールしたい。同窓生の皆さん！応援よろしくお願ひいたします。

ホッケー部 キャプテン

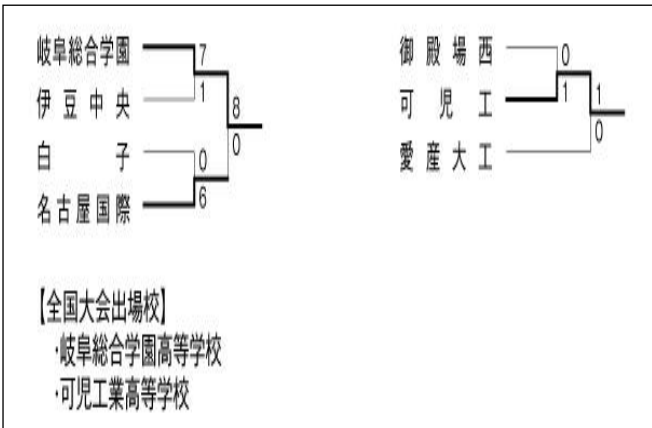
機械科 二年

森 雄哉

一試合目の御殿場西高校戦では、相手は強豪と分かっていたので「粘り強くディフェンスをし、カウンターで得点を目指す」という作戦がハマり、得点後も最後まで皆で守り切りました。

二試合目の愛産大工業高校戦は攻めを意識し試合はじめはピンチも幾度か有りましたが、「必ず勝ちたい！」と言う気持ちがプレーを変え攻撃を仕掛けていき見事「勝利！全国切符」を獲得しました。

僕はキャプテンとしてこのチームとともに戦えたこと、そして全国大



東海大会集合写真

会出場を果たせたことに感謝するとともに、これからもキャプテンとして皆を牽引して行きたいです。まずは十二月二十二日の初戦で勝利出来るよう頑張ります。OBの皆様の応援をよろしくお願ひいたします

発行日の関係で全国大会前の原稿です。

全国大会は、

『全国ベスト8』

の活躍でした。

卓球競技

東海大会出場！

卓球部

化学技術科 二年

塚越 脩

私は平成三〇年七月十四日に愛知県のスカイホール豊田で行われた中部日本卓球選手権大会と、十一月八日(木)〜一〇日(日)に三重県のサオリーナで行われた東海卓球選手権大会に出場しました。両大会はやはり県大会を勝ち上がって出場してくる選手ばかりなので、とてもレベルが高く驚きを隠すことができませんでした。試合会場の雰囲気はいつもと違い、どのように振る舞っていか

かも解らなくなってしまうほどでした。私はいつも試合になると緊張してしまい、なかなか練習の成果を発揮できないことが多いです。さらに私はほとんどの試合でフルゲームとなり、気持ちに余裕がなくなってしまう傾向にあります。そこで今回の試合では大会の雰囲気飲み込まれないようにするために精一杯声を出すことを目標にしました。精一杯声を出せば緊張もほぐれて自分の実力が出せると思ったからです。しかしながら中部日本大会では初戦に二二三で惜敗してしまい、とても悔しい思いをしました。技術面よりも精神面をもっと鍛える必要があると感じ、東海大会までの練習に励みました。東海大会では今までの悔しさを晴らすために今まで以上に声を出し

て自分を奮い立たせました。その結果初戦に勝つことができ、自分にとって今までは違う特別な勝利となりました。最終的には三回戦まで勝ち進み、大きな自信につながりました。まだこれからも試合はたくさんあるので、今回の経験や学んだことを生かして練習に励みたいと思います。そして再び東海大会や中部日本大会に出場できるように頑張りたいと思います。ここまで指導してくださった顧問の先生に感謝したいと思います。

卓球部

機械科 一年

堀江 翔喜

私は平成三〇年十一月八日(木)〜十日(日)に三重県のサオリーナで行われた東海卓球選手権大会に出場しました。初日に会場に入り、地区大会や県大会とは違う緊張感を肌で感じました。先輩と練習を始めましたが、周りの様子にドキドキしてなかなか落ち着いて練習できませんでした。二日目に私の試合は無く観戦していましたが、試合が始まって東海大会のレベルの高さを痛感しました。特に打球コースや、ツッツキ、ストロップという技術についてとても正確性が高く、圧倒されてしまいました。そのようなかで先輩の試合が始まり、自分もその場の雰囲気飲み込まれないように一所懸命応援しました。先輩は三回戦まで勝ち上がることで

き、そのおかげで私は少し落ち着き

を取り戻すことができました。三日目にととう私の試合が始まりました。自分なりに精一杯の試合をしましたが、静岡県の清水国際高校の選手に初戦で惜敗してしまいました。しかし、東海大会に出場した選手のみしか味わえない体験は今後につながると思います。来年も東海大会に出場できるように努力していきます。



中部日本選手権 会場風景



東海卓球選手権 会場風景

ものづくりコンテスト

「木材加工部門」

東海大会3位

建設工学科 三年

後藤 貴紀

平成三〇年八月二十四日、三重県四日市市御浜文化会館カチュール御浜で第十七回高校生ものづくりコンテスト東海大会兼全国大会予選木材加工部門が行われました。

屋根の骨組みを制限時間内に製作し、その出来映え等を出場者八人で競う大会です。ものコンの練習を四月から始めて、毎週月、木、土の週三回練習を行ってきました。朝はノミや鉋を研いで、切れるようにしました。練習では、二時間半の通し練習や部材練習を行なって精度を高めていきました。当日の作品は、今までで一番良いものでしたが、釘を打つ時に、木材を傷つけてしまい、最後まで気を緩めないように集中できれば良かったと思います。大会の審査は長引き、夜七時にやっと閉会式を迎え順位が発表されました。大会の結果は三位でした。できれば優勝したいと思っていたので、少し残念でしたが入賞できて良かったと思いました。今回、大変貴重な経験をする事ができて良かったと思います。就職先ではこの経験を生かして頑張っていきたいと思います。



「測量部門」大会風景



「木材加工部門」表彰風景



「木材加工部門」大会風景

ものづくりコンテスト

「測量部門」

東海大会出場

建設工学科 三年

吉田 柊介

平成三〇年八月二十三日、岐阜工業高校で行なわれた「ものづくりコンテスト測量部門東海大会」に建設工学科三年生の吉田柊介、同二年生の藤井悠生、渡邊颯人の三名が岐阜県の代表として出場しました。

この大会は、あらかじめ設置してある測点を、測量機械を用い観測するの、「より早く」「より精度良く」行なうことが大切となります。また、それ以外にも道具の扱い方が悪かったり、他のチームへの妨害があったりすると減点対象となるので、必要があり、細かい動作も意識して行なう必要があります。私は一年生の時にも、ものコンに出場しており、その時は県大会で敗退してしまいました。その悔しさも忘れずに一年間練習することで、二年生の時には県大会で二位をとることができました。それからは東海大会に向けて練習を行ないました。県大会までの問題点を見直しながらより精度を高めていきました。結果は優勝できませんでした。が仲間と最後まで全力を尽くすことが出来たのでよかったです。次の大会には私は出場できないので後輩たちには全国に行ってほしいと思います。

ものづくりコンテスト

化学分析部門」

東海大会出場

化学技術科 三年

大戸 龍斗

昨年度に引き続き、私は「工業高校生ものづくりコンテスト・化学分析部門」に出場する機会をいただきました。化学分析部門は、未知資料中のカルシウム・マグネシウムの硬度(濃度)をキレート滴定法によって求め、その分析精度だけでなく実験態度や見栄え、レポートの完成度、実験時間など様々な観点で評価がなされるということ、他の部門に比べ特殊な競技だと感じています。

一年生で出場させていただいた大会は、「敢闘賞」でした。入賞できて嬉しかった反面、もともと自分なりにできたかもしれないと思う複雑な気持ちもあり早い段階で次年度の出場を希望していました。一年次の反省をよく思い出しながら自分なりに工夫・改善し、また、先生方にアドバイスをいただきながら毎日遅くまで練習に取り組みました。

二回目の出場となった昨年度の岐阜県大会では、作業終了時間がギリギリになってしまいました。焦らずに練習通りに作業できたことが「最優秀賞」という最高の結果につながったと確信しています。また、ここまで支えてくださった先生方とクラスの間にも恩返しできたように思います。岐阜県代表として出場



化学分析部門 会場入口にて



化学分析部門 大会風景

した東海大会(名古屋市)は競技レベルもとても高く、順位は思うような結果を残すことができませんでした。が、「卓越技能賞」を受賞することができました。

私は、春からフタムラ化学株式会社(美濃加茂市)に入社します。ものづくりコンテストを通じて学んだ様々な経験を少しでも会社で活かすことができるようこれからも頑張っていきたいと思えます。

進路状況

進路指導主事
山田 富美義

初日となった七月二日には一三六社から人事担当者や来校され、本校生徒の求人者を直接依頼していただける状況で、対応に追われながらも嬉しい悲鳴を上げていました。これもひとえに卒業生の皆様のご活躍が本校への信頼につながっているものと感謝しております。近年の傾向としましては、やはり地元志向が強くなり、採用所在地としては

昨年度および今年度の進路状況の概要をご報告します。就職希望者・進路希望者の割合は、ほぼ例年通りで七割就職、三割進学です。

また、数年前から本校への求人依頼がうなぎ登りに増えており、昨年から有効求人倍率が十倍を超えるようになってきました。今年度の求人票受付は、

県外でも地元の工業団地への工場進出により、地元勤務のできる企業への就職者が増加しています。進路につきましては、四年制大学、短期大学、専門学校とともに愛知県を中心とした学校が大半です。また、入試方法につきましては、例年と同様に指定校推薦とAO入試がほとんどを占めています。

本校では、生徒の希望する進路実現一〇〇%を目指して、各学年に合わせた進路ガイダンスや事業所・上級学校見学などの行事を催すことで、進路意識の向上により自発的学習意欲や基本的な生活習慣に結びつけたいと考えています。本校は就職・進学を希望しているもの全員が、進路先を決めて卒業しております。

これからも卒業生の皆様が築きあげてこられた可児工ブランドをさらに大きなものにしていただける生徒を送り出すべく努力してまいりますので、今後ともより一層のご支援ならびにご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

	29年度	30年度	
求人企業数	986	1,149	
求人数(倍率)	1,461(10.2)	1,902(14.3)	
就職者数	機械科	55	66
	電気システム科	30	19
	化学技術科	30	31
	建設工学科	29	25
	計	144	141
進学者数	機械科	18	15
	電気システム科	8	19
	化学技術科	9	5
	建設工学科	10	12
	計	45	51
採用所在地	多治見管内(ハローワーク)	37	37
	その他県内	49	47
	愛知県	54	55
	その他	4	2
	計	144	141
勤務地	県内	90	94
	県外通勤圏	25	27
	その他	29	20
	計	144	141

部活動の活躍

部活動の活躍 2018

現在 18 の部活動が活躍中です。同窓生の皆様、応援よろしくお祈りします。

バレーボール部 本年度は全日本選手権県予選においてベスト8という成績でした。県新人大会ではベスト4を目指して、日々頑張っている活躍をしております。

バスケットボール部 現在44名の部員が在籍しております。本年度の成績は県高校総体ベスト16、中濃地区総体準優勝、県選手権大会ベスト32でした。まだ新人大会があります(1月開催)ので、県のベスト4以上を目指して頑張ります。

テニス部 個人では結果を残せないものの、団体ではインターハイ予選や新人大会で地区を勝ち抜き県大会へ出場している。今後県大会で一つでも勝ってベスト8を目指したい。

野球部 今年度は春・地区大会敗退、夏・初戦敗退、秋・地区大会敗退と悔しい結果となりました。部員は3学年で61名と過去10年間で最多です。「謙虚な姿勢・感謝の心」を大切に日々の練習に励んでいます。

サッカー部 岐阜県リーグ3部G組3位(3勝1敗1分)という状況です。2部リーグ昇格を目指し頑張っていきたいと思っています。

剣道部 「生涯に通じる正しい剣道」を習得することを第一の目標とし、「将来良き親となる為の土台を作れ!!」をモットーに明るく楽しく活動しています。

今年度は、県新人戦ベスト8結果を残しました。インターハイ出場目指して頑張ります。

ホッケー部 インターハイ県予選：2位、中濃総体：優勝、東海選手権：優勝、選抜県予選：2位、選抜東海大会：全国大会出場権獲得。9年ぶりに全国選抜大会に出場。全国で一つでも多く勝てるよう頑張ります。

ラグビー部 H30年度成績：単独チームとして岐阜県7人制大会3位、合同チームとして県総体3位部員数の減少で合同チーム(15人に満たない)として出場しているが、部員を集め単独出場し県ベスト4を目指します!

卓球部 活動方針の「強くある前に、正しくあれ」をスローガンに卓球に限らず何事にも情熱と真剣さをもって努力し、日々頑張っています。H30年度は東海卓球選手権大会および中部日本卓球選手権大会に個人戦で出場しました。

陸上部 「楽しく」陸上競技をすることを目標に活動しています。もちろん結果を残すことは前提で、近年では東海大会出場を続けています。全国大会で活躍できるような部に、そして誰から見ても「楽しく」活動している、応援される部を目指して頑張ります。

ハンドボール部 高校からハンドボールを始めた生徒が40人以上在籍している部活動です。本年度は中濃総体優勝、県選手権大会2部準優勝という成績を残しました。最終目標であるインターハイ(5~6月)では県ベスト8を目指し頑張っています。

美術部 地区高校美術展にて優秀賞1名、奨励賞1名(県高校総合文化祭へ出品)

絵画、デザイン、木彫 など、個々が表現方法を探求し作品制作に励んでいます。

放送部 今年度はNHK杯放送コンテスト県大会5位、県新人大会3位という結果でした。昨年度は全国大会を逃しましたが、少しずつ成果ができました。来年こそはもっと良い作品を制作して、全国大会へ向かえるように頑張っていきます。

吹奏楽部 今年は一年生が11名入部して音に厚みが出てきました。「中恵土地区センター」での発表会や「可児工祭」での演奏会。また、各種コンテスト入賞を目指して日々頑張っております。

機械システム部 ものづくりコンテスト東海大会(旋盤部門)に6年連続出場し、4年ぶりに優勝して全国大会出場を果たしましたが惜しくも入賞は成らなかった。またEVカーの鈴鹿大会に初参戦し高校順位で8位と健闘した。他にも地域イベントに積極的に参加しています。

電気システム部 ジャパンマイコンコンペラリーでは全国大会2連覇を達成、また缶サット甲子園では2年連続で岐阜県大会を制し全国大会出場、H30年度大会では全国大会準優勝を果たしました。

化学技術部 H29年度工業高校生ものづくりコンテスト岐阜県大会では、最優秀賞ならびに奨励賞を受賞(10年連続入賞)。岐阜県代表として出場した東海大会では、卓越技能賞を受賞しました。12月に行われるH30年度岐阜県大会でもよい結果を残すことができるように、一生懸命練習に励んでいます。

建設部 ものコン東海大会(木材加工部門・測量競技部門とも)に出場を果たし、木材加工部門は第3位になりました。さらなる飛躍を目指し、12月の県大会に向け練習に励んでいます。岐阜女子大学主催の「住まいリフォームコンテスト2018」では2年生が建築士会賞、3年生2名が優秀賞となり、受賞数に対して学校賞を頂きました。